キズナエピソード

環はなび　1話

//ヴィジュアルノベル形式開始

悪魔どもとの激しい戦いに勝利した俺たち。

そんな時、俺ははなびに話しかけていた。

//ヴィジュアルノベル形式終了

//ADV形式開始

［黒猫］

「おい、気をつけろって！

さっきの技、俺も巻き込まれるところだったぞ！」

［はなび］

「あぁ、ごめん。でも無事だったじゃないか」

［黒猫］

「たまたま運が良かっただけだ。

次からは気をつけるんだぞ？」

［はなび］

「運がいい、か。良いことじゃないか。

そんだけツイてるなら、次も大丈夫かもね」

［黒猫］

「……！」

［はなび］

「おい、どうした、オムニス？

怒ったのか？」

［黒猫］

「……いや、なんでもない。

ほら、さっさと行くぞ」

//ADV形式終了

//暗転

//場面転換：白い部屋

//ヴィジュアルノベル形式開始

白い部屋に戻って来た俺は、感慨深くため息を吐いた。

「そんだけツイてるなら、次も大丈夫かもね」

この言葉に強い既視感を覚える。

まるで学生時代の青春の匂いが思い起こされるような、

そんな感覚……。

そんな時――

//ページ切り替え

突如として、俺は耐えがたい睡魔に襲われる。

視界がぼんやりとしたモヤに包まれる中で、

俺は知りもしない記憶を垣間見た。

それは、学校での昼休み……。

その時の俺は、友達と昼飯を賭けて大貧民をしていた。

//ヴィジュアルノベル形式終了

//ADV形式開始

//都立有羽・教室

［とびお］

「よしっ、8切り！　これで、あがりっと！」

［友人］

「ぐあー、また負けたー

お前、ギャンブル強すぎだろ！」

［とびお］

「いやぁ、俺って強いのかもしれない。

それじゃあ、昼飯代もらうぞー」

［友人］

「くっそー……そうだ！　今度は違う賭けしないか？

ほら。もう少しで野球部の新人戦があるだろ？

どこが優勝するか、当てようぜ！」

［とびお］

「おもしろそうだな。

それじゃあ、俺は――」

［とびお］

昼飯を賭けたお遊びのギャンブル。その延長上。

そんな軽い気持ちで、俺は友達の賭けに乗っかった。

［とびお］

そして、数日後。

俺の予想した高校は、見事に優勝した。

［友人］

「お前、運良すぎだろ……マジで」

［とびお］

「へっへ～。さぁ、俺の勝ち分プリーズ？

今日の昼飯は豪勢にいくぞー」

［友人］

「いやぁ、それなんだが、すまん。

お前の勝ち分は、ある場所に行って受け取ってきてくれ」

［とびお］

「へ？　なんで？」

//ADV形式終了

//ヴィジュアルノベル形式開始

「実は……

今回は、ちゃんとした胴元がいる賭けなんだよ」

友人はそう言って、一枚のメモを渡してくれた。

俺は放課後になってから、

渡されたメモを頼りに指定された場所へと足を運ぶ。

……そこで、はなびと出会った。

//暗転

//ヴィジュアルノベル形式終了

//ADV形式開始

//カフェ店内

［とびお］

たかだか昼飯代をかけたギャンブルくらいで、

受け取りだとか胴元だとか、めんどくさいな……

［店員］

「いらっしゃいませー。お一人様ですか？」

［とびお］

「いや、知り合いがいるはずなんだけど……

えっと、誰かな……？」

［はなび］

「……そこの、不審者みたいな人。

キョロキョロしてないで、こっちに来なよ」

［とびお］

店内を見渡していると、そんな声がかけられた。

俺は従われるままに席に向かい、腰を下ろす。

［とびお］

「君がはなびって子？

友達からここに行くよう言われたんだけど……」

［はなび］

「そう。

アンタがとびおだろ。

すごいな。ほら、アンタの勝ち分だよ」

［とびお］

そう言って、彼女は厚みのある封筒を渡してくる。

中身を覗いてみると、一万円札が詰まっていた。

ざっと見、××万くらいはある。

［はなび］

「今回は番狂わせだったから、大穴だった。

ついてるね、アンタ。ジャックポットだよ」

［とびお］

「え。ちょっと待て。こんなに……え？」

［はなび］

「じゃ、私は帰る――あ、そうそう」

=========================スチルカットシーンA開始=========================

［とびお］

店から出ていこうとしたはなびが、

思い出したように俺に小さな紙を握らせてくる。

［とびお］

その紙には、環はなび、という名前と、

SNSのIDが書かれていた。

［はなび］

「今回渋谷で勝ったのはアンタだけ。

そんだけツイてるなら、次も大丈夫かもね」

［はなび］

「またやる気があれば、そこに直接連絡くれよ。

その種銭で、もっと面白いことやらせてあげるよ」

=========================スチルカットシーンA終了=========================

//ADV形式終了

//ヴィジュアルノベル形式開始

俺の頭が疑問符で一杯になっている間に、

はなびはカフェから出ていった。

我を取り戻して追いかけたときには

すでにはなびはタクシーに乗り込んでおり、

俺は遠ざかる車体を眺めることしかできなかった。

//ヴィジュアルノベル形式終了

//1話END